

師範學校編輯

萬國史畧

二

學	書	號
歐州	亞細	歐州
二	一	二
學校	編	號

210

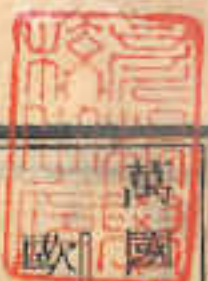
741

Vol. 2

師範學校編輯

萬國史畧卷之二

明治七年月 文部省刊行



萬國史畧卷之二

歐羅巴洲下

人民ノ移轉

紀元四百年代、羅馬帝國ノ衰頹セル頃ニ當リ歐
羅巴洲ニ、大動亂アリテ、全洲ノ居民、互ニ其住人
ヲ驅逐シテ、他國ニ轉移ス、是ヲ歐羅巴洲民ノ大
移轉ト名ヅク、現今各國人種ノ區別、略此時ニ定
マル者トス、蓋シ是ヨリ先キ、亞細亞洲ノ内地ニ、
匈奴ト名ヅクル野民アリ、帳幕ヲ以テ家トシ、沙漠
ノ中ニ、牛羊ヲ遊牧ス、固ヨリ住処ヲ定メザル民

種ナレバ、常ニ水草ヲ逐ヒテ、轉居シ、或ハ隣國ヲ
 掠シ久シク漢土ニモ寇セシコトアリシガ、紀元
 三百七十年ノ頃、仁徳天皇ノ末終ニ大ニ破ラレ、顛轉シ
 テ、西北ニ移リ、漸ク歐羅巴洲ノ東部ニ侵ルシテ、
 土人ヲ逐ヒ攘ヘリ、其頃、歐羅巴洲ノ土人、久ク各
 地ニ部落ヲ爲セシ者、之ヲ防グコト能ハズ、遂ニ其
 部衆ヲ率テ、更ニ隣境ニ侵ルシテ、又其土人ヲ逐
 ヒ攘ヘリ、此ノ如ク、互ニ相驅逐シテ、次第ニ隣國
 ヨリ、隣國ヘ及ボシ、終ニ羅馬ノ封内ヘ侵ルス西
 羅馬ノ版圖ハ、全ク、此等ノ野民ノ爲ニ、瓦解セン

メラル其入種中、寧ジゴツツフランクス、アングル
 ス、サクソンス、ウ、シガルス、等ノ如キ、皆此時ニ在
 テ、英、佛、獨逸、西班牙、以太利等ノ諸國ニ移リ住セ
 リ、故ニ、今ノ西洋各國ハ、皆此居民ノ大移轉ニ因
 リ、羅馬帝國ノ分裂セシ後、建國セル者トス、

佛蘭西

此國、歐羅巴ノ西ニ在リ、往古ノ土人ヲゴウルト
 名ツケ、羅馬ノ大將セサル、始テ之ヲ征服シ、後、數
 百年ヲ歷テ、羅馬ノ勢衰ヘ、居民大移轉ノ時、アラ
 シクスト名ツクル人種此國內ニ移住シ、土人ヲ

征シ羅馬ノ屯兵ヲ逐ヒ、遂ニ邦土ヲ分領セリ、其
 酋長メロウエーノ孫、クロヴスナル者、紀元五百年
 ノ頃、武烈天全國ヲ平定シテ、王位ニ即キ、耶蘇教
 ヲ信奉ス、是ヲ佛蘭西ノ始王トス、爾後、世々ノ國
 王、多クハ、酒色ニ溺レテ、政事ヲ治メズ、内臣漸
 權ヲ專ニスルニ至リ、チャートルス、マルトルナル者、
 威力最、全國ニ震ヒ、次テ、ペヒン、ルブレフニ至リ
 終ニ王位ノ禪ヲ受ク、其子シャーレマン、嗣テ位ニ
 昇リ、英邁大度ニシテ、威力内外ニ振ヒ、精銳ノ兵
 馬ヲ師キテ、諸國ヲ征討シ、獨逸、以太利、瑞西、和蘭

シロマニシテ



比耳時ヨリ、西州カノ北都等
 ヲ合セテ、盡ク之ヲ領地トシ、
 且羅馬法王ノ加冠ニ因テ、終
 ニ帝位ニ昇レリ、是、紀元八百
 年相武天皇實ニシテ、實ニ羅馬
 馬國以後、此ノ如キ大國ヲ爲
 ス者アラズ、之ニ加フルニ、學

校ヲ起シ、法度ヲ定メ、殊ニ教化ヲ厚クセリ、其功
 業ノ大ナルガ故ニ、更ニ大帝ト尊稱ス、其歿スル
 ニ及ビ、太子ルイ、位ヲ嗣ギシガ、不肖ニシテ、大國

ヲ統御スルノオナク、遂ニ領地ヲ分ツテ、三子ヲ封ズ、即佛蘭西以太利、獨逸ノリ、皆封建ノ制ヲ用キ、國內ヲ大小ノ諸侯ニ區分セリ、
此時佛國ニ王タル者ヲチャールヌ二世ト名ツク、然ルニ、獨逸以太利トハ、元來兄弟ノ國タレ、臣、彼此、互ニ不和ヲ生ジ、數年間、屢戦争ヲ起セリ、且、此頃ノルマント稱スル海賊、此國ニ來リ、竊セシガ、之ト戰ヒ、屢敗北シ、終ニ西岸ノ地ヲ割キ、之ヲ與ヘテ、和睦ヲ爲スニ至レリ、後世ノルマンジト稱スル地、是ナリ、此ノルマシハ、歐羅巴ノ北部、那

威ノ人民ニシテ、此頃、健國ハ其ニ、海賊ヲ串ク、勢甚強猛ニシテ、諸國之ヲ敵スルニ能ハス、英國ノ如キモ、亦健國人ノ爲メ、征畧セラレシヨリ、時ニ佛國ノ勢次第ニ衰ヘ、國內ノ諸侯皆政府ノ命ニ從ハズ、ヒューダカベット侯ナル者、終ニ王ニ過リ、禪ヲ受ケテ、位ニ昇ル、是、紀元九百八十七年ニ在リ、爾後、國勢ヲ挽回シ、都ヲパリニスニ定メ、後紀元千三百二十八年ニ至リ、チャールヌ四世王ノ歿スルニ及ビ、近キ血統絶ユルニ因リ、ヴロイス侯アリ、六世、其從弟タルヲ以テ、ハツテ位ヲ繼

たり、然ルニ英國ノ王エドワード三世、佛王ノ親
 戚タルガ故ニ、宣シク其國ニ王タルスシテノ論
 テ發シ、大軍ヲ舉ゲテ佛國ニ侵ハス、是ヨリ兩國
 カ十餘年間ノ戦争ト爲レリ、此頃、英國ノ勢盛ニ
 シテ、佛軍之ニ敵シ難ク、多年ノ間、數度ノ戦争ニ
 敗北シ、領地次第ニ棄ハレ、ダウソン王ノ如キ、大
 ニ敗北シテ、逃ニ捨テラレ、國內頗ル混亂ヲ極
 ム、其後、數世ノ間、英國ト或ハ和シ、或ハ戦ヒ、國內
 ニテ亦騷亂屢起リテ、國力大ニ疲弊セリ、紀元、千
 四百二十二年、チャールズ七世ニ至リ、又大ニ英國

ノ兵ヲ被リ、數回敗軍レテ、全國大抵敵ニ没ハシ、
 國王ハ、唯オルレアン城ヲ保ツト雖、英兵ノ圍嚴
 シク、國ノ存亡且タニ逼レリ、然ルニ、此時、ジャンヌ



シダンノ一タテノ殺國

一クト名ヅクル一
 女子アリ、民間ニ起
 テ、義兵ヲ舉ゲ、オル
 レアンノ圍ヲ解キ
 國王ノ難ヲ救ヒシ
 カバ、國內、兵ヲ起シ、
 之ニ應スル者多ク、

皆決死シテ、英兵ト戦ヒ、數度ノ勝利ヲ得テ、漸ク
一、土地ヲ回復セシガ、後、英人シヤンタークヲ擒ミ
シテ、之ヲ焚殺セリ、然レバ、英軍終ニ利ナクシテ、
國ニ退キ、以後、兩國ノ戦争、始メテ息ミ、漸ク平穩
ニ至レリ、

其後、數世ノ間、壤地利ト戦争シ、又衆諸侯ノ地ヲ
合併シ、國力漸ク強盛ニ赴キ、政府ノ威令、國內ニ
行ハル、後、フランシス一世ニ至リ、豪猛ニシテ兵
ヲ好ミ、紀元、千五百十九年ノ頃、ヨリ西班牙ト
不和ヲ生ジ、終ニ數度ノ劇戦アリ、此時、西班牙王

ハ獨逸帝ノ位ヲ襲ネ、チヤールス五世ト號シ、兩國
ノ兵力ヲ統ベ、其勢甚ダ盛ニシテ、佛軍屢敗北シ、
フランシス一世、一度擒トナルニ至リシガ、國ニ
歸ルノ後、再ビ兵ヲ起シ、終身戰鬥ニ從事セリ、此
頃、獨逸ニ於テ、教法改革ノ争乱起リ、次テ佛國ニ
及ボシ、國內頗ル動搖セリ、此争乱ノ起原ハ、從來
羅馬教、固陋ニシテ、弊害多キカ故ニ、ルゼルト云
ヘル高僧、出テ、新教ト名ヅクル一派ヲ立テ、人
民ノ之ニ歸依スル者多カリシガ、政府ヨリ、邪教
ナリトシテ、之ヲ禁シ、或ハ、其教徒ヲ刑ニ處セシ

ヨリ漸ク大争乱ヲ生ゼルナリ、佛國ニテハ此教法ヲ嚴禁セシニ因テ、國內ノ動搖少カラズ、其後國王ノ系統絶エ、ブルボン族ヲ迎へ、位ニ即カシム、之ヲヘマリ四世トス、濶達明敏ニシテ、善ク治安ヲ得タリ、ルイ十三世、幼ニシテ位ヲ嗣ギ、政ヲ執ルテ能ハズ、宰相リセリ、政務ヲ總理シ、賢明ニシテ、能ク國ヲ富マシ、民ヲ安ンゼリ、

紀元、千六百四十二年、明正天皇寬永二十年ルイ十四世、位ヲ繼ク、時ニ佛國ノ勢、最モ隆盛ヲ極メ、國力富強ニシテ、文華甚々盛ナリ、殊ニ、國王ハ、華美ヲ好ミ、

ルイ十四世



官闕ヲ營ミ、パリス城ノ如キ、歐羅巴第一ノ都ト爲レリ、是ヨリ、國王、益々奢侈ヲ極メ、漸ク傲慢ヲ生シ、封地ヲ廣メントシテ、類ニ兵ヲ起シ、隣國ヲ併吞スルニ因リ、各國皆其驕恣ナルヲ嫉ミ、獨逸、英吉利、和蘭、西班牙等カヲ合セ

テ、之ニ抗敵シ、數年間、戰爭息マズ之ガ爲メ、毎ニ巨萬ノ財ヲ費ヤシ、且苛政ヲ行ヒ、庶民ヲ虐ケ、内ハ奢侈ヲ盡クシ、外ハ兵革ニ從事セシカバ、晩年ニ及ビ、國力大ニ疲弊シ、稍衰微ノ徵ヲ顯ハスニ

至レリ、紀元七百十五年、其歿スルノ後、ルイ十五
世ヨリルイ十六世ノ代ニ至リ、次第ニ衰ヘ、終ニ
古來未曾有ノ大争亂ヲ起セリ、
ルイ十六世ハ、仁惠ノ君ナレド、此國古來ノ弊風
ニ因テ、貴族ト僧官ノミ、威權ヲ擅ニシ、門地アル
者ハ、坐食シテ奢ヲ極メ、常ニ賦税ヲ重クシ、庶民
ヲ虐ゲシカバ、國民皆政府ヲ怨ムヲ深ク、將ニ大
騷亂ノ起サントスルノ兆、已ニ顯ハレタリ、是ニ
於テ紀元、千七百八十九年、大集會ヲ開キ、國內ノ
貴族、及ビ國民ノ名代人ヲ、諸州ヨリ呼出シ、集議

シテ、此流弊ヲ改メントヒシニ、其說遂ニ一致セ
ズ、其間、種々ノ徒黨起リ、互ニ相争フテ、勳播已マ
ズ、紀元、千七百九十一年先格天皇
寬政三年終ニ大騷亂ト
爲リ、口ベスビエールナル者、過激黨ノ巨魁ニシ
テ、最モ殘忍暴戾ヲ極メ、國王及ヒ王妃ヲ獄ニ繫
ギテ、之ヲ弑シ、貴族ハ捕ヘテ、盡ク首ヲ刎ネ、凡ソ
平民ヲ苦メシ者ハ、殺シ盡クシテ、殘スコナシ、此
激徒、終ニ政事ノ全權ヲ握リ、國體ヲ變ジテ合衆
政治ト爲スト、雖、徒黨幾個ニモ分レ、異黨ノ者
互ニ相殺シ、口ベスビエールノ黨ノ如キモ、亦盡

多獵滅セラレ、彼ノ華美ヲ極メタル、パリスノ都城ハ、忽チ積屍ノ山ヲ爲セ、内乱終ニ止ムコトナシ、

時ニ佛國ノ大將、ナポレオンナル者、豪邁雄武ニ

ナポレオン一世



シテ、不世出ノ英畧アリ此頃、兵ニ將トシテ、以太利ニ入り、屢壞地利ノ兵ヲ破リ、又エジプトヲ征伐セシガ、本國ノ動搖、尚未ダ止マザルヲ聞キ、陰

ニ大志ヲ抱キテ國ニ歸リ、急ニ合衆政府ノ徒黨ヲ驅逐シ、自ヲ大統領トナリテ、政事ヲ總理シ、獨リ全國ノ威權ヲ掌握ス、此時歐羅巴ノ各國、合併シテ兵ヲ起シ、佛國ニ攻入レ、ナポレオン、盡ク之ヲ伐チ破テ、大ニ人望ヲ得タリ、終ニ千八百四年光緒天皇文化元年帝位ニ即キ、ナポレオン一世ト號ス、是ヨリ數年ノ間、獨逸、魯西亞、瑞典、西班牙等ノ諸國、カヲ合セテ、屢佛軍ニ抗敵スト雖、片ナポレオンノ兵ヲ用ヅルコト、鬼神ノ出沒スルガ如ク、向ヲ所盡ク之ヲ破リ、諸國ヲ平定シテ、或ハ之ヲ屬地トシ

或ハ親戚功臣ヲ分封シテ、其國王ト爲シ、終ニ歐
羅巴ノ大畧、皆其屬國タルガ如ク、其命ヲ奉セザ
ル者無キニ至レリ、此時、英國ハ島國ニシテ、海軍
ヲ以テ堅守スルガ故ニ佛國ノ命ニ從ハズ、佛兵
モ亦之ヲ攻ムル一能ハズ、因テ各國ニ令シテ、一
切英國ノ貿易ヲ禁シ、英國ヲシテ、自ヲ疲弊セシ
メント欲ス、然ルニ、魯西亞ハ、此令ヲ奉セサルヲ
以テ、紀元千八百十二年、文化九年ナボレオンハ魯西
亞ヲ伐クント欲シ、遂ニ四十六萬ノ大軍ヲ起シ
テ東北ニ向ヒ、大戰數回ニシテ、魯國ノ都モスヨ

ト府ニ攻入リシニ、魯人ハ、盡ク人家ヲ燒拂ヒテ、
引退キタレバ、佛軍、北北地ノ寒氣ヲ凌グテ能ハ
ズナボレオンモ巴ムトヲ得ズ、引退カントヒシ
ニ大雪既ニ路ヲ塞キ、魯兵、四方ヨリ襲撃セシカ
バ、佛軍大敗シテ、全軍皆路上ニ死亡シ、ナボレオ
ンモ纔ニ逃レテ、パリスニ歸ルトヲ得タリ、然レ
モ、尋テ忽チ十五萬ノ兵ヲ舉ケ、再ヒ獨逸ニ進發ス、
是ニ於テ、歐羅巴各國皆兵ヲ興シテ、之ヲ迎ヘ、大
ニライプシツケニ於テ會戦シ、佛軍全ク敗走シ、
各國ノ兵、追フテパリスニ入り、終ニナボレオン

ノ位ヲ黜ケ、地中海中ノエルバ島ニ流シ前王ノ
弟ヲ立テ、是ヲルイ十八世トス、因テ、紀元千八百
十四年、諸國ノ使節、埃地利ノ都ニ會合シ、各國ノ

十ボレオノ再佛國ニ上陸スル圖



疆界等ヲ議定スルニ當リ、翌
春、ナポレオンハ、潛ニエルバ
島ヲ遁レ出デ、佛國ニ上陸セ
シカバ、舊臣殘卒、歡呼シテ之
ヲ迎ヘ、遂ニ國王ヲ逐斥シ、再
ビ帝位ニ昇ラシム、是ニ於テ、
大軍ヲ帥キテ、比耳時ニ進發

ス、各國大ニ愕キ再ヒ兵力ヲ合併シテ、フー
ロニ會シ、大戰シテ、終ニ佛軍ヲ破リ、再ヒナ
レオンヲ黜ケ、遠ク亞非利加洲ノセントヘレナ
島ニ流シテ、ルイ十八世ヲ位ニ復セリ
其後、國內稍平穩ニ属スト雖、臣、國民徒黨シテ、相
競ヲノ勢止マズ、チャールス十世位ヲ繼ギ、威權ヲ
以テ、檀ニ政令ヲ行ヒシヨリ、紀元千八百三十年、
内乱復々起リ、一度政府ヲ覆スト雖、臣、再、オルレ
アン侯ヲ立テ王トシ、之ヲルイ、ヒリッゾト名ヅク
然ルニ、千八百四十八年ニ至リ、又動乱ヲ生ジ、國

王ヲ廢シテ合衆國トシ、ナポレオン一世ノ甥ルイ、
ナポレオンナル者、大統領ニ任ゼシガ、終ニ帝ト
稱シ、ナポレオン三世ト號ス、爾後、國內稍平定ニ
歸シ、國力富強ニシテ文物隆興シ、加フルニ、ナポ

ナポレオン三世



レオン三世、英オヲ以テ、政權
ヲ掌握シ、大ニ海陸軍ヲ起シ、
宇内ニ雄視ス、千八百五十四
年英國ト合シテ、魯國ヲ伐チ、
セバストボルノ砲臺ヲ陥シ
イレ、大ニ國威ヲ輝カシ、尋デ

千八百五十九年、サルチニアヲ助ケテ、埃地利ト
戦ヒ、大ニ之ニ勝ツテ、殆ンテ、各國ヲ睥睨スルノ
勢アリ、然ルニ千八百七十年、普魯士國ノ王族ハ
西班牙國王ト爲サントスルノ論ヨリ、普國ト和
親破レ、ナポレオン、自ラ四十万ノ兵ニ將トシテ、
獨逸ノ國境ニ進發シ、普王モ亦自ラ大軍ヲ帥キ
テ、之ニ會シ、ライン河ノ近傍ニ於テ、大ニ戦争ア
リシガ、佛軍大ニ敗北シ、佛帝、セマンニ退キ、籠賊
スト雖也、防クコト能ハズ、自、城ヲ闕キテ、普軍ニ降
ル、是ニ因テ、國內又大ニ騷擾シ、再ビ合衆國ト爲

リ、更ニ普軍ヲ防ギシガ、終ニ支フルヲ能ハス、巨
万ク償金ヲ出シ、土地ヲ割キテ、之ニ與ヘ、翌春ニ
至リ、兩國漸ク和睦ヲ爲シ、爾來、尚、合衆共和ノ政
ヲ以テ全國ヲ統治セリ、

英吉利

此國ハ歐羅巴ノ西北ナル島國ナリ、上古ノ人
ヲ、ブリトント名ヅク、故ニ此國ヲ指シテ大ブレ
テ、テロントトモ云フ、羅馬ノ大將ヒサル、始メテ此國
ヲ征伐シ後、羅馬ノ屬國ト爲レリ、數百年ヲ歷テ、
羅馬ノ勢衰ハ、歐羅巴洲民大移轉ノ時ヨリ、獨逸

地方ノアンダロ人、サタソン人等、此國ニ移リ、

人ヲ平ゲ、土地ヲ畧取シ、次第ニ分レテ、數多ノ諸

侯ト爲リ、其中七大諸侯アリテ、數百年間、互ニ戰

争セシガ、紀元八百二十七年、淳和天皇
天長四年ニ至リ、七

諸侯中、ウエツセックス侯始メテ國內ヲ一統ス、然ル

ニ、其後、韃馬人來寇シ、之ヲ防グヲ能ハズ、漸ク土

地ヲ棄ハレ、之ニ屈伏シ、韃國王カニ、トノ時ノ

如キ全ク其領地ニ歸セリ、

其後、故ノ國王ノ子エドワルド、王位ニ昇リシガ

韃國人、及ビ從來ノ諸侯、土地ヲ分領シ、王ノ威令

失_レ終ニ位ヲ黜ケラル、
エドワルト三世ノ時佛國ノ王チャールス四世歿
シテ、太子無シ、因テ、英王ハ其近親ノ縁アルヲ以
テ、佛國ノ王位ニ昇ルベキノ論ヲ立テ、終ニ自ラ
大軍ヲ將キテ、佛國ニ攻メ入り、大ニ勝テ、殆ド全
國ヲ征服セントスルノ勢アリ、此戦争數世相繼
ギ、前後九十餘年ノ間、屢佛國ノ兵ヲ破リ、或ハ佛
王ヲ擒ニセシトアリヘヌリ六世ニ至リ、内乱ニ
因テ、終ニ兵ヲ班ヘシ、是ニ至テ、盡ク佛國ノ領地
ヲ失ヘリ、此時政令衰ヘ、ヨリク侯其前王ノ血統

タルヲ以テ、國王タラシクヨリ唱ヘ、兵ヲ起シ、國
王ニ抗シ、其子終ニ王位ニ昇リ、エドワルト四世
ト號ス、是ニ於テ、國內ニ黨ニ分裂シ、二十餘年間
ノ大乱ト爲リ、常ニ戦争止マザリシガ、ヘヨリ七
世、起テ此國乱ヲ平ケ、始メテ平和ニ至ル、是紀元
千四百八十五年ニ在リ、然レモ其後又時々内乱
ナキニアラス、又ニ其由縁ナクハ、
千五百五十八年、正親而天皇女王エリザベス位
ニ即ク、賢明ニシテ、能ク政ヲ修メ、國內平穩ニシ
テ、航海貿易ノ法、盛ニ開ケ、又西班牙國ト戦争起

不位ニ昇リ、子ナクシテ歿ス。是ニ於テ、其血統ヲ
 選ビ、獨逸國ノ内、ハノーブルノ王、セオルチ三世
 ヲ迎ヘテ、王トス。即今代女王ノ家系ナリ。其後西
 班牙、佛蘭西等ト戦争アリシガ、國內ハ平穩ニシ
 テ、貿易盛大ニ開ケ、海外ノ領地モ亦隨テ廣大ニ
 至レリ。然ルニ、セオルチノ政不正ナルヲアリシ
 ヲリ、千七百七十六年後桃國大皇
安永五年亞米利加洲ノ
 属地、叛テ兵ヲ舉ゲ、合衆國ト稱シ、獨立セントス。
 英王ノ征ンテ、七年間戦争ニ及ビシガ、之ヲ平
 グルヲ能ハズ。終ニ其獨立ヲ許シテ、和議ヲ講ズ。

尋テ佛國ノ大亂起リ、ナポレオン一世ノ四方
 ヲ攻伐スルニ至リ、此國ハ海峽ヲ隔ルガ故ニ、佛
 軍遂ニ攻來ルヲ得ズ。然レモナポレオンハ各
 國ニ令シテ、一切英國トノ貿易ヲ禁シ、之ノ疲弊
 セシモンヲ謀レリ。後英國ノ大將エリリング
 トン、兵ヲ率キテ、西班牙ニ力ヲ



合セ、佛軍ト戦テ、屢之ヲ破リ、其
 國ニ侵入セリ。後又、ナポレオン
 ノエルバ島ヲ遁レ、再ビ兵ヲ舉
 グルニ當リ、ヌートルローノ大

戰ニ、エールリントン、諸國ノ兵ヲ指揮シテ、之ヲ
 破リ、終ニナポレオンノ大乱ヲ平治セリ、其後、國
 内無事ニシテ、航海貿易、日ニ繁盛ヲ極メ、相繼デ、
 今代ノ女王ビクトリア、千八百三十九年（同）皇天保
 十位ニ即キ、鴉片ノ事ニ、因テ、清國ト戦争アリ、三
 年ノ後、香港ノ地ヲ得テ、和議ニ及ベリ、千八百五
 ト四年ヨリ、佛國ト合シテ、魯國ヲ攻メ、其砲臺セ
 バストホルヲ陥シイレ、戦争止ム、千八百六十年
 再ビ清國ト戦ヲ起シ、北京ヲ陥シイレ、又償金ヲ
 取テ、和議ヲ爲セリ、現今、國內平静ニシテ、富強ノ

勢愈盛ナルハ、其百六十二年

獨逸、（リ） 埃地利、大普魯士、（リ） 平マ、其王封

獨逸ノ一名ヲ日耳曼ト云フ、歐羅巴ノ中央ニア

リ、羅馬ノ盛ナル頃、此地方ハ、野民ノ割據スル所

ニシテ、未ダ其内地ヲ征服スルニ能ハザリシガ、

佛國シテ、レマシ帝ノ時ニ至リ、始テ其政令ニ從

ス、後帝ノ封土分裂スルニ及ビ、獨逸ハ、ルイドイ

ツルナル者、國王トナリ、域内皆封建ノ制ヲ用事

大小許多ノ諸侯ヲシテ、之ヲ分領セシム、後、チヤ

ルス王ノ時、暫ク佛國ニ合スト、雖、后國王、不徳ニ

シテ、人望ヲ失ヒ、終ニ位ヲ黜ケラル、國王不繼
 紀元八百八十八年、和多帝仁、和四年、チャールス王位ヲ退
 ク、ノ後ハ、獨逸王ノ位ニ昇ル者ハ、總テ一定ノ系
 統ヲ以テセズ、國內衆諸侯ノ選舉ニ係リ、其權甚
 ダ重シ、後世ニ至テハ、大諸侯七人ニテ、國王ヲ選
 舉スルニ卜定マレリ、ヘメリ王ノ時、魯ク國ヲ治
 メ、ホニガリヨリ、辺境ヲ侵ス者ヲ討破リ大ニ
 武威ヲ輝セリ、其子オッ一世繼テ立ツ、英邁ニシ
 テ、オカレリ、終ニ以太利ノ國乱ヲ平ゲ、其王位ヲ
 兼統シ、紀元九百六十二年、村上天皇、羅馬法王ノ

如冠ニ因テ、帝位ニ昇ル、是ヲ獨逸帝ノ始トス、後
 コンラッド三世ノ時ニ至リ、國內大ニ乱レ、數百年
 間、戰爭絶エズ、政令大ニ衰へ、大小ノ諸侯、皆獨立
 國ノ如ク、各隨意ノ政ヲ行ヒ、更ニ國帝ノ命ヲ奉
 ゼズ、國帝ト諸侯ノ間ニ、屢戰爭起リ、又羅馬法王
 ト相和セズシテ、奕世ノ混乱、絶ユルコナシ、後十
 字軍ノ起ルニ及ビ、國內ノ諸侯、之ニ赴ク者多ク、
 フレデリッ、ヤ一世ノ如キ、自ラ兵ヲ帥キテ、小亞細
 亞ヲ征シ、水ニ溺レテ死セリ、其後コンラッド四世
 ノ歿スル後、國內復大ニ擾乱シ、國帝ヲ立テザル

一、殆ト二十年ニ及ベリ、
 紀元千二百七十三年ハ、
 一世ヲ立テ、帝位ニ即カシム、
 是今ノ埃地利ノ始
 祖ナリ、其後又數代ノ間、
 内亂屢起ル、次デリクセ
 シ、ボルダ侯ノ系統、
 帝位ニ在ル、十數世ナリシガ、
 千四百三十八年ヨリ、
 又ハプスボルダ侯アルス
 ルトニ位ヲ傳フ、次デ
 千四百九十五年、
 マキシミ
 リヤン一世、
 帝位ニ即キ、
 衰勢ヲ挽回シテ、
 積年ノ
 騷亂ヲ平ゲ、
 威令漸ク國中ニ行ハレ、
 諸侯ヲ會同
 シテ、
 國法ヲ改革シ、
 國內治安ト稱セリ、
 此頃ヨリ

獨逸帝ノ位ハ、
 埃地利ノ家系ニテ、
 繼續スベキ事
 ト定マリ、
 且ボヘミヤ、
ホンガリーノ二國、
 又埃地利ノ
 屬地ニ歸セシカバ、
 千五百年代ヨリ、
 其勢最
 盛ニシテ、
歐羅巴中ノ一大國ト爲レリ、
 且マキシ
 ミリヤン一世ノ孫、
ルース五世、
 其血統ヲ以テ、



兼テ西班牙ノ王位ニ昇リ
 シガ故ニ、
 兩國一帝ノ統轄
 ニ屬シ、
 其領地ハ、
和蘭比耳
 時ヨリ、
 以太利ニ跨リ、
 海外ノ屬國ハ、
 殊ニ南北亞米利

加ノ地ニ多ク、實ニ當時無双ノ大國ナリシテ、日輪
嘗テ其領内ニ没スルト無シト稱セリ、然レモ佛
王フランシス一世之ニ敵ンテ、屢戰ヲ起シ、且土
兒其ノ勢甚タ猛烈ニシテ、東辺ヲ攻畧シ、頻ニ國
内ニ侵ハス、其間、教法改革ノ争乱、國中ニ起リ、嚴
ニ之ヲ禁ズト雖モ、人民遂ニ從ハズ、千五百三十
一年、新教ニ歸依スル諸侯、カヲ合セテ、之ヲ主張
シ、全國大ニ動揺シ、剩ヘ、外國ヨリモ此黨ヲ助ケ
テ、國帝ニ抵抗セシメシカバ、已ムトヲ得ズ、和議
ヲ講ジテ、新教ノ禁ヲ弛メ、稍平穩ニ復セリ、

紀元千五百五十六年、チールス帝自ラ位ノ退キ、
其子フィリップ二世ニ、西班牙ノ王位ヲ讓リ、其弟ヘ
ルデナンド一世ヲ以テ、獨逸帝ノ位ヲ嗣ガシム
是ニ於テ、兩國再ビ分レ、次ダヘルデナンド二世
ニ至リ、再ビ新教ノ黨ヲ束縛ヒシヨリ、更ニ復内
乱ヲ發シ、千六百十八年ヨリ、國中三十年間ノ大
争乱トナリ、其間、人命ヲ損亡セルト、其幾數萬ナ
ルコトヲ知ラズ、殊ニ英佛瑞典和蘭ノ諸國、兵ヲ出
シテ、新教ノ黨ヲ助ケシカバ、千六百四十八年、終
ニエストハリアニ於テ、大集會ヲ爲シ、各國和議

ヲ結ビ、新教舊教並ニ行ハレテ、相侵リ、ル_レト
爲レリ、次アレホボル_ド帝ノ時ホシガリ_ノ人
民、乱ヲ作シ、土兒其ノ大軍、此處ニ乘ジテ、國都中
ロシナヲ攻崩_ルニ至リシガ、獨逸ノ兵、擊テ之ヲ
退ケ、又ホシガリ_ノ平定スル_トヲ得_ルリ、其後
チャールス六世ノ歿スルニ及ビ、太子無ク、唯マリ
ヤ、アレサト云ヘルニ女アリシガ、女帝位ヲ繼グ
ノ舊例ナシトテ、大ニ争乱起レリ、然レ_レ、終ニ女
帝立テ、和議ヲ講ゼリ、且ロルレイ_ン侯_ヲランシ
ス_ニ世、既ニ女帝ト婚スル_ヲ以テ、兩家合併シテ、

フランシス一世_ニ位_ヲ傳ス、
普魯士國ハ、元來獨逸中ノ一諸侯ニシテ、
デンビュル_グヲ領セ_ルガ、フレドリッ_キホル_レム_ノ
世、教_法改革ノ變_乱ニ因テ、更ニ領地ヲ増シ、始メ
テ獨逸中著名ノ一國ト爲レリ、且フレドリ_ッキ_キ中
ル_レ人ハ、勇猛果斷ニシテ、善ク國ヲ治メ、富強ノ
基ヲ開キシカバ、其子フレドリ_ッキ_{一世}ニ至リ、千
七百一年_{東山天皇九年}、終ニ王國ト爲レリ、嗣テフ
レドリ_ッキ_{二世}特ニ智勇兼備ノ豪傑ニシテ、各國
ト戦ヒ、屢勝利ヲ得テ、更ニ境_ヲ擴メ、武威ヲ一

世ニ輝カシ、又文化ヲ勸メ、法度ヲ改革シ、歐羅巴
 中ノ強國ト稱セラル、故ニ國民之ヲ大玉ト尊稱
 ス、其初メ、奧國ノ女帝、マリヤ、テレリ、位ニ即クニ
 及ビ、ノレダリツキ二世、兵ヲ起シテ、奧地利ヲ撃チ、
 シレシレフ攻取テ、之ヲ領セリ、次ハ各國普魯士

世ニキル、デレフ



ハ日ニ富盛ニ起クヲ嫉ミ
 魯西亞、佛蘭西、瑞典、及ビ獨
 逸中ノ諸國一致シテ、共ニ
 奧地利ニカヲ合セ、普國ヲ
 亡ボラントヒシヨニ、ブレダ

リツキ二世、之ト抗敵シ、一七五〇年、普國大皇帝
 ヨリ、七年間ノ大戦争ニ及ビ、常ニ數倍ノ大敵ニ
 當リ、屢苦戦スト雖、少シモ屈セズ、終ニ尺寸ノ
 領地ヲモ縮ムルト無クシテ、和議ヲ講スルニ至
 ル、是ヨリ、普王ノ英名歐洲ニ轟ケリ、
 其後、千七百年代ノ終ニ至ルマデ、國內平穩ニシ
 テ、著ルキ沿革アラズ、千七百九十五年、奧、普ノ兩
 國、魯西亞ト共ニ、ポリアンドヲ滅シ、之ヲ三分シ
 テ、各疆土ヲ増セリ、
 佛國大騷乱ノ時ハ、奧地利ノフランシス二世、獨

逸帝ノ位ニ在テ、屢兵ヲ出シテ、佛國ト戦争ニ及
ビシガ、毎ニナボレオンノ爲メニ討虜ヲレ、前後
兩度國都ニ攻入ラレ、之ヲ防グコ能ハズ、終ニ地
ヲ割テ、償金ヲ出シテ、和議ヲ講シ、且佛帝ノ意ニ
循ヒテ、獨逸帝ノ號ヲ去レリ故ニ爾後奧地利帝
ト稱スト雖ル、獨逸全國ハ、同盟國ト稱シテ、別ニ
皇帝ヲ立ツルコトナシ、
普魯士國モ、亦屢ナボレオント戦ヒシガ、千八百
七年、大ニ敗ラレ、封土ノ過半ヲ失ヒ、漸ク和睦ニ
到レリ、其後、ナボレオンノ魯國ニ攻入り、大敗ス

ルニ及ビ、獨逸ノ諸國皆兵ヲ舉ゲテ、佛國ニ向ノ
此時普王フレデリック、オルレム三世他國ニ先ダ
イテ、兵ヲ起シ、奧地利魯西亞等ト共ニライノシ
クニ於テ、大ニナボレオント戦ヒ、之ヲ破テ、佛國
ニ侵入シ、ナボレオンノ位ヲ黜ケ、因テ奧地利ノ
都中ニニナニ於テ、大集會ヲ爲シ、各國ノ疆界ヲ
定メ、奧普兩國モ、亦其故地ヲ復スルコトヲ得タリ、
又獨逸同盟ノ諸邦ハ、皆互ニ獨立スト雖ル、一致
シテ、政事ヲ行フベキ約ナルガ故ニ、各邦ノ使節ヲ、
每歲ノランクフォルト府ニ集會シ、奧地利ノ使節

ヲ議長トシテ、國事ヲ決セリ、千八百六十年、埃地利ト以太利ノ間ニ、戦争起リ、佛帝ナボレオン三世、以太利ニカラ合セ、大戦争三度アリシガ、終ニ埃國ノ兵破レ、ロンバルギ一ヲ割キ、以太利ニ歸シテ、和議ニ及ベリ、千八百六十六年、慶應二年埃普兩國ノ間ニ、不和ヲ生シ、終ニ獨逸全國ノ争乱ト爲リ、次デキユীগ、グヲツノ大戦争アリ、普軍、人ニ埃軍ヲ破リ、和議ヲ講スルニ及ンデ、埃國ハ獨逸同盟中ヲ斥ケラレ、ハノトブル、ヘッヒカッセル、ナツリウ等ノ數邦、亡ビテ

普王 弗列ム ビスマルク



普國ノ地ニハリ、其餘ノ各邦ハ、南北二部ニ分レ北部ハ、皆普國ノ管轄ニ歸ス、故ニ普國ノ勢、愈盛大ニ赴ケ

リ、千八百七十年、明治四年西班牙國ノ王位相續ノ論ヨリシテ、普國佛國ト戦争起リ、普王キルレハ一世宰相ビスマールト共ニ、大軍ノ師キ

テ、佛國ニ攻入り、ナホレオン三世ヲセタニニ擒
 シハリスノ都ヲ攻囲ミ、終ニ大勝利ヲ得テア
 ルサス、ロレーンノ二州ヲ取テ、和議ヲ講ゼリ、是
 ヲリ、普王兼テ獨逸皇帝ノ位ニ昇リ、南北獨逸ヲ
 合シテ、全國ヲ統轄シ、其國勢實ニ宇内ニ雄視セ
 リ、
 壤地利ノ今帝ハ、フランシス、ジョーゼフ一世ト名
 ノ國勢ハ、昔ノ如ク盛大ナラズ、
 瑞西
 瑞西國ハ獨逸ノ西南ニアル山國ナリ、佛帝シヤ

レマニノ時、其版圖ニ屬セシガ、後獨逸ニ歸シ、獨
 逸帝ヨリ、鎮將ヲ置テ、之ヲ管轄セリ、彼ノ壤地利
 ノ祖ハブスホルグ侯ルドルフハ、元來、此國ノ貴
 族ナリシガ、千二百七十三年、獨逸帝ノ位ニ昇レ
 ルヲ以テ、爾來、此國大抵壤國ニ屬セリ、後アルベ
 ルト一世ノ時、專ラ威權ヲ以テ、國民ヲ制御セン
 トシゲスレル等ノ如キ、苛酷ナル鎮將ヲ遣リ、賦
 稅ヲ重クシ、虐政ヲ施セシヲ以テ、國內ノ三州相
 結ンデ義兵ヲ起シ、中ルレム、テルナル者、鎮將ヲ
 殺シ、紀元千三百三年、後ニ條帝ヨリ、遂ニ戰端ヲ

開ケリ、是ニ於テ、埃國ヨリ此乱ヲ鎮壓セントシテ、兵ヲ出セシガ、後、大戦争アリテ、瑞西ノ兵、大ニ之ヲ破リ、近傍ノ州郡、同盟ニ加ハル者、次第二多ク、其勢頗盛ナリ、其後、又屢、埃國ノ兵ヲ被グルト雖、埃、山地ノ操練ニ熟シタル精兵ヲ以テ、嶮阻ニ據リ、烈シク之ヲ防禦シ、少シクモ屈セス、其後、埃國ニ叛キテ、同盟ニ加ハル者多ク、千四百七十五年ブルコンジ侯ト戦テ大勝利ヲ得タリ、千四百九十九年、獨逸帝マイトシミリアンノ時、一舉シテ此國ノ乱ヲ平ゲント欲シ、大軍ヲ以テ、攻來ルト

埃、國民一致シテ激戦シ、埃軍ヲ破ルト前後六戦争ニ及ビシカバ、近隣ノ州郡、同盟ニ入ル者益多ク、其勢愈強盛ニ及ベリ、因テ埃國ヨリ和議ヲ約シ、終ニ其獨立ヲ許スニ至レリ、其後、教法改革ノ争乱ノ時、此國モ亦頗ル動搖ス、後、又佛帝ナポレオン一世ノ時ニ至リ、一旦其版圖ニ歸スト、雖、埃、埃都ノ大會議ニ於テ、再ビ獨立國ト爲リ、瑞西共和國ト稱シ、其頃二十二年、州ニ分テリ、其後、國內黨與分レ、且教法ノ異論ヨリ、人心不和セズ、終ニ、千八百四十五年、舊教ニ属スル者

兵ヲ起セリ然レバ、忽チ之ヲ鎮定ス、後、諸州ノ法
 度互ニ異リテ、政令全ク一致セザルニ因リ、千八
 百四十八年、孝明天皇大ニ全國二十二州ノ代議
 士ヲ集會シ、國法ヲ改革シ、大統領ヲ立テ、公會ノ
 法ヲ設ケ、全國ノ政務ヲ執行スルトト爲レリ
 和蘭 比耳時
 和蘭ハ獨逸ノ西北ニアリネーデルラントト稱
 ス、古代ハ比耳時ト共ニ一國タリ、羅馬大將セサル
 ノ時、之ヲ征服シテ、其屬地ト爲ス、後羅馬ノ末世
 ニ至テ、國內大小ハ諸侯、各土地ノ分領セシガ、佛

帝シヤールマンノ時、全國皆其封土ニ入ル、帝歿シ
 六、佛國ト獨逸ト戦争起ルニ及ビ、此國常ニ獨逸
 ニ與ス、其後數百年間、諸侯貴族尚諸州郡ヲ分領
 シ皆土着シテ互ニ獨立シ、一定ノ國王アラザル
 ガ故ニ、動モスレバ、兵ヲ交ヘ、戦争屢起リ、又諸侯
 互ニ婚姻ヲ結ブノ故ヲ以テ、領地ニ沿革ヲ生ジ、
 終ニ國內ノ州郡大畧佛國ノ大諸侯アルマンシ
 公ハ領地ニ歸セリ、ナルマンシ公ハ女、壤地利帝
 ト婚スルニ及ビ、終ニ又壤國ニ歸シ、其後、轉シテ
 西班牙ノ屬ト爲ル、時ニ、西班牙王セリッテ、殘忍ニ

シテ民ヲ虐シ、殊ニ教法改革ノ時、嚴ニ新教ヲ禁
ジ、綾戮ヲ恣ニセシカバ、國人皆至テ怨ミテ兵ヲ
舉ゲ、之ニ敵シ、千五百七十九年、正親町天皇終ニ
合家國ト爲ル、此時ヨリ、國內南北二部ニ分レ、南



部ハ今ノ比耳時ニシテ、尙西
班牙ニ屬シ、北部ハ今ノ和蘭
ニシテ、七州一致シ、キルレム
公ヲ推シテ大將トシ、數年間
西班牙ト激戦シ、終ニ獨立ス
ルトシテ得ダリ、爾後國勢次第

一強ク、其海軍殊ニ盛ニシテ、遠ク西班牙、葡萄牙
等ノ屬地ヲ奪ヒ、海外ノ領地甚ダ廣大ト爲レリ、
但シ此頃、葡萄牙人ヲ逐ヒテ、日本ヘハ通商ヲ開
ケリ、是和蘭最盛ノ時代ニシテ、内ハ國內ノ都府
ヨリ、外ハ航海貿易ニ至ルマデ、益其富盛ヲ極メ、
終ニ英國ト相讎ヒ、千六百五十二年、後光明天帝ヨ
リ三年間、兩國ノ大戦争ニ及ビ、屢海軍ヲ以テ、英
軍ヲ破リ、殊ニデロイトルヲ大將トシテ、テールハス
河ニ溯リ、英都ノ近傍マデ攻入り、大勝ヲ得シ
アリ、其後、千六百七十二年、英佛、獨逸ノ諸國、力ヲ

合ヒテ、四方ヨリ攻來リシガ、ナポレオン公三世、兵
一將トシ、數倍ノ大敵ト戰テ屈セズ、終ニ和睦スル
ニ至ル、後、英國ニ、内亂起リ、國王ヲ廢スルニ及ビ、
ナポレオンヲ迎ヘテ王トス、故ニ、當時和蘭英國合
併シテ、殆ド一國ノ如ク、力ヲ合ヒテ、屢佛國ト戰
争ヒリ、其後、西班牙ノ王位相續ノ亂起リ、又佛國
ト戰ヒシガ、其和睦ノ時、比耳時ノ地又壤地利ノ
領地ニ歸セリ、
佛國大亂ノ時ニ當リ、千七百九十二年、佛國ノ兵、
直ニ比耳時ヲ平ケ和蘭ニ向ヒタルガ、其壤和

蘭ノ國內、徒黨相分レ、佛軍ニ向フ能ハズ、終ニ、地
ヲ割テ、和睦ヲ乞ヒ、ハタビマン合衆國ト稱シ、半
ハ之ニ服従ス、故ニ英國トノ和親廢レ、海外ノ領
地ハ皆英國ニ奪ハル、次デナポレオン一世、其弟
ルイナポレオンヲ此國ニ封ジテ王位ニ即カシ
メ、給メテ和蘭王國ト稱ゼシガ、久シカラズシテ、
之ヲ廢シ、千八百十年、全國佛蘭西ノ領ニ歸セリ、
其後、ナポレオンノ魯西亞ニ大敗スルニ及ビ和
蘭ノ國內、皆兵ヲ舉ゲテ獨立シ、ナポレオン一世ヲ
立テ王トス、是千八百十四年光緒十一年ナリ、次



戰ノコロルナラ

テ、埃地利ノ都キーンナノ會議ニ於テ、東印度ノ領地ヲ英國ヨリ復シ、又比耳時ヲ、和蘭ニ合併シテ一國トス、又ナポレオン、エルバ島ヨリ遁レ、再ビ兵ヲ擧ゲテ、比耳時ニ侵入スルニ當リ、和蘭ノ兵英吉利普魯士等ト共ニ之ヲ邀ハ、ナールホルムニ於テ、大戰シ、遂ニ之ヲ破ルニ至ル、其後、國內平穩ニシテ、貿易製造ノ業益繁盛ニ赴ケリ、

其後、國民教法ノ異論ヨリ南北自ラ不和ヲ生ジ、キルレム二世ノ時、比耳時、兵ヲ起シテ、和蘭ニ叛キ、數度戦争ノ後、和議ニ及ブ、是ニ於テ、比耳時獨立シテ、始メテ王國ト稱シ、獨逸列國ノ内、サキスコーンブルグノ公子リオポルドヲ迎ヘテ、位ニ即カシム、是千八百三十九年仁孝天皇十年ニ在リ、是ヨリ、和蘭比耳時又兩國ニ分レ、和蘭ハ、千八百四十九年ヨリ、今代ノ國王キルレム三世、位ニ昇リ、比耳時ハ、千八百六十五年ヨリ、今王リオポルド二世位ニ即ケ、

噠馬 瑞典 那威

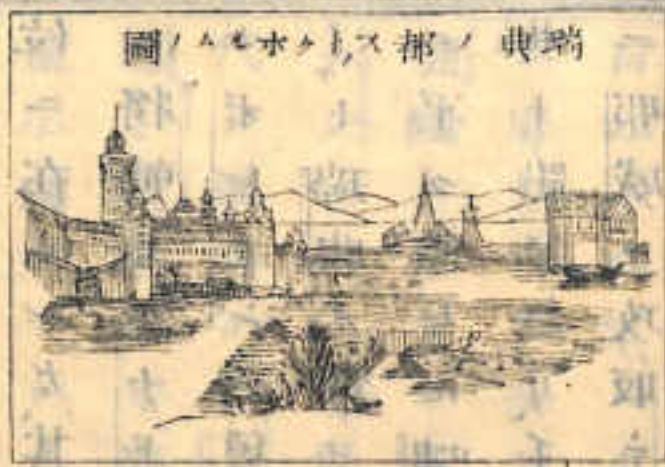
此三國ハ歐羅巴ノ北ニアリ、古代之ヲスカン
ハビント總稱シ、或ハ分レ、或ハ合シ、今世ハ、瑞典
那威ノ二國、合併シテ、一王ニ屬ス、此國ノ人民、上
世ニ在テハ、數多ノ部落ニ分レ、風俗強悍ニシテ
戰鬥ヲ好ミ、且互ニ徒黨ヲ結ビ、兵船ヲ以テ、海賊
ヲ業トス、紀元八百年代ノ始ヨリ歐羅巴ノ諸國
ヲ侵畧シテ、其勢甚ダ猛烈ナリ、又國內ノ形勢ハ
漸ク許多ノ諸侯ニ分レシ者、又互ニ興亡アリテ、
小邦相合併シ、九百年代ク來ニ至リ、終ニ噠馬瑞

典、那威ノ三王國トナレリ、是ヨリ先ニ噠馬ノ人
民屢英國ヲ侵シ、土地ヲ蠶食シテ、之ヲ領スルニ
至ル、次ニ八百七十八年ノ頃、英國ノ王子アルノ
レッド、兵ヲ興シテ、噠國人ヲ破リ、漸ク國勢ヲ挽回
セシガ、久シカヲズシテ、又噠國人、之ヲ攻畧シ、殊
ニカニトト王ノ如キ、終ニ英ノ全國ヲ平定シテ、
領地ニ歸シ、兼テ其國ノ王位ニ昇レリ、又九百九
十九年保元年條帝長ノ頃、那威ヲ合セテ、之ヲ領シ、國
勢最盛ナリ、又那威ノ人民ハ、八百年代ノ始ヨリ、屢
佛國ニ攻入リタルガ、終ニ北岸ノ地ヲ奪ヒ、ノル

マンチク侯ト爲ル、其後紀元千六十五年、ノル
 マンチク侯キルレハ英國ヲ一統ヒリ、
 噠國王カ能ハシテ歿スルノ後、三國又分ク、互ニ戰
 闘スリテ、久シク昇足ノ勢ヲ爲セシガ、女王マ
 ガレトニ至リ、復合併シテ、三國ニ主タリ、此マ
 ガレトハ、那威王ノ妃ニシテ、噠國王ノ女ナリ、故
 ニ那威王ヲ歿スルニ及ビ、遂ニ位ニ即キ、兩國ニ
 君臨ス、此頃、瑞典ハ、アルベル王ノ世ナリシガ
 不徳ニシテ、内乱ヲ生ジ、人心皆マナガレトニ歸
 セルヲ以テ、女王之ヲ平定シ、遂ニ瑞典王ヲ擒ニ

ス、是ニ於テ、千三百九十七年、後小松天皇 女王、三
 國ノ名代人ヲカレマレニ會合シ、其ニ一致シテ、
 萬世永續スルニ盟約ヲ爲セリ、然ルニ、女王歿ス
 ルノ後、代々ノ王、皆噠國ニ都シテ、瑞典那威ヲ抑
 制セシガ故ニ、兩國皆之ヲ怨ヌリ、殊ニクワステ、
 アシニ世、不徳ニシテ、政令紛亂レ、千五百二十四
 年ニ至リ、大ニ内乱起リ、國民終ニ王ヲ逐弁テ、其
 伯父フレテリクヲ立テ王トス、瑞典亦久シク
 噠國王ノ虐政ヲ怨替ヒシガ、此内乱ニ乘ジ、故ノ
 國王ノ子孫、クステマワツサ、民間ヨリ起リ、兵ヲ

舉ゲテ、全國ヲ平定シ、終ニ獨立國ト爲ルヲ得タ
 リ、然レモ、那威ハ、尚久シク、哱國ニ屬セリ、
 其後、獨逸ニ於テ、教法改革ノ争亂起ルニ及ビ、三
 國共ニ新教ヲ奉スル國トシテ、兵ヲ出シテ、獨逸
 帝ト戰シ、殊ニ瑞典王ニステ、アフレノハ日
 精兵ヲ帥キテ、數倍ノ大軍ヲ破リ、大ニ勇戦セ
 シガ、終ニ命ヲ殞セルニ至ル、然レモ、此戰爭ノ利
 議ニ因テ、瑞典ノ疆土、大ニ擴マリ、バルチック海ノ
 濱ニ達ス、尋テ、兵制ヲ改革シ、學問貿易ヲ進メ、國
 勢更ニ強大ナシテ、哱國ト相競ヘリ、



其後、瑞典ノ有名ナル國王ハ、キ
 ルス十二世ニシテ、霸業ヲ企
 テ、四隣ヲ蠶食ス、此頃、魯西亞ハ
 ヒトトル帝ノ世ニシテ、帝モ亦
 土地ヲ西方ニ擴メントス、是ニ
 於テ、兩雄相争ヒ、數年間ノ大戰
 争アリ、キールス王ハ、直チニ魯

國ノ内地ニ侵ルセシト欲シ、千六百九十七年、
 天
 皇
 元
 大
 軍
 ヲ
 帥
 キ
 テ
 魯
 國
 ノ
 南
 部
 ニ
 侵
 ル
 シ、
 此
 戰
 争
 二
 ト
 ル
 帝
 ト
 大
 戰
 シ、
 敗
 レ
 テ
 土
 兒
 其
 ニ
 遁
 ル、
 此
 戰
 争
 二

因テ、瑞典大ニ疲弊シ、遂ニ國內黨與相分レ、甚平
穩ナラズ、然レモ、**捷國**ハ久シク無事ナリ、
ナボレオンノ時ニ至リ、**瑞典**王、**カール十三世**、
位ニ在リシガ、其太子歿スルニ因テ、**ナボレオン**
將帥ベルナドットヲ迎ヘテ、之ヲ太子トス、其後
ナボレオンノ魯西亜ニ敗軍スルニ及ビ、ベルナ
ドット**瑞典**ノ軍ヲ帥キテ、**列國**ト合從シ、**佛國**ノ乱
ヲ平ズ、然レモ**捷國**ハ尚**佛國**ニ與セシガ故ニ、**瑞**
典ト戦争起リ、千八百十四年、先格天皇文**瑞典**終
ニ**那威**ヲ攻取テ、今ニ至ルニ至リ、之ヲ領セリ、千八

百四十四年、ベルナドット歿シテ、太子オスカル位
ニ昇リ、次デ今王カール十五世ニ傳フ、
捷國ハ、往昔ヨリ、獨逸中ノスレトスウイグホルス
テンノ兩邦ヲ併セ領セシガ、千八百六十三年、今
代ノ國王クリスティアン九世、位ニ即クノ翌年、獨
逸ト戦争起リ、終ニ此兩邦ヲ割テ、和議セシヨリ、
益小國トナレリ、
西班牙、葡萄牙、
此國ハ**歐羅巴**ノ西南ニアリ、古代ハカルターチノ
領地ニ歸シ、後又羅馬ノ所領トナリシガ、洲民大

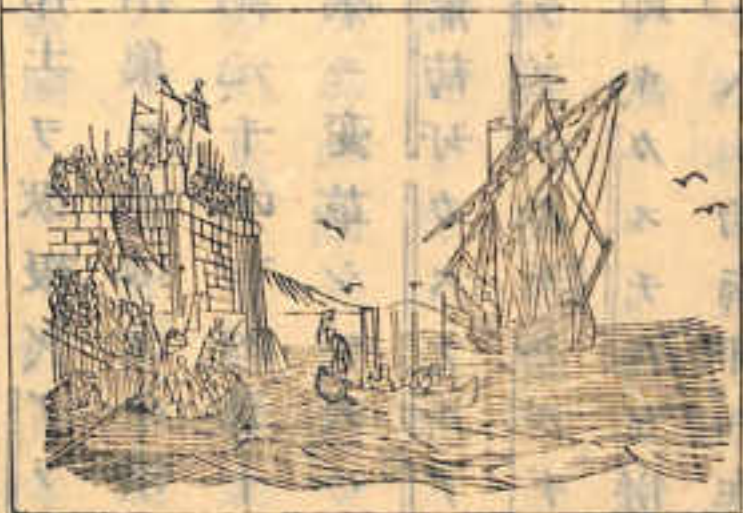
移轉ノ時、ウイジゴツト名ツタル人民、此國ニ移住シテ、邦土ヲ分領セリ、然ルニ、亞細亞ノアラビヤニ、田々教起リ、其門徒兵カヲ以テ、四隣ヲ威逼シ、領地ヲ擴ムルニ當リ、紀元、七百年ノ頃ヨリ、此國モ亦回教門徒ノ爲メニ攻入ラレ、其勢猛烈ニシテ、國人之ヲ防ダシ能ハズ、全國終ニ其有ニ歸シ、回教法王此國ニ在住シ、所々ニ都府ヲ建テ、邦土ヲ領畧セリ、土人ハ皆之ガ爲メニ、山中ニ引退キ、嶮阻ノ地ニ據リ、敢テ屈セズ、カヲ盡シ、アラビヤ人ト戰鬪スルト、數百年間止ムト無カリシガ、次

第一ニ邦土ヲ恢復シ、アラビヤ人ヲ逐退ケ、大小ノ諸侯相集テ、土地ヲ分領スルニ至レリ、其後、紀元、千四百四十五年ノ頃後花園ニ至リ、國勢次第ニ變革シテ、大ハ小ヲ併セ、四王國ト爲ル、即チ葡萄牙カスチルアラゴンナバール等はナリ、アラゴンノ王ヘルチナンド千四百七十九年、位ニ即キ、カスチルヲ併セ、又ナバールヲ平ゲ、アラビヤ人ノ尚南部ニ在ル者ヲ逐攘シ、終ニ大國ト爲リ、國ヲ西班牙ト號ス、此頃ヨリ、國勢甚盛ニシテ、地中海中ノ諸島ヲ併セ、航海ノ業最闊ク又

以太利人ナル、コルムブスニ船舶ヲ給シ始メテ
亞米利加ノ地ヲ發見セシメ、其地ヲ開拓シテ、版

圖ヲ廣メ、利益ヲ得ル、
頗ル大ナリ、
此頃、葡萄牙國モ、亦航海
ノ業、次第ニ繁盛ニ赴キ、
國王ヘヌリ、殊ニ之ヲ勉
勵セシメ、毎年、數艘ノ船
艦ヲ出シテ、亞非利加洲
ノ海岸ヲ經歷セシム、是

圖ノ帆出スブムルコ



ヨリ先キ、既ニマデヲアソール等ノ諸島ヲ檢出
シ、尙漸ク、亞非利加ノ西岸ニ沿ヒ、領土ヲ廣メ、
且、是ヨリ以前、海路ヨリシテ、印度ニ至リ難キヲ
以テ、常ニ此海路ノ開カント志セシガ、千四百八
十六年、此國ノ船、始メテ亞非利加ノ南端ニ達シ
歸リテ後、其地ヲ喜望峯ト名ヅク、其後、數年ヲテ
スシテ、喜望峯ヲ廻リ、東印度ニ航海スル針路ヲ
發明ス、是皆亞米利加ノ檢出前ニ在リ、是ヨリ、印
度及ビ印度海ノ諸島ヨリ、漢土ヘ交易ヲ開ク、是
明ノ世ナリ、次デ日本ヘ來ル、是天文年中ナリ、蓋

シ、是ヨリ以前ハ、印度地方ノ産物、皆駱駝ヲ以テ
遠ク陸路ヲ運搬シ、辛クシテ貿易ヒシニ、今海路
ヨリ、自在ニ往來運送スルヲ得テ、葡萄牙リスボ
ンノ港ハ忽チ歐羅巴第一ノ都會ト爲リ、頗ル繁
華ヲ極ムルニ至レリ、
西班牙王ヘルデンドハ、唯一女アリテ、墮地利
ノ公族ヒリップニ嫁シ、太子チーリスヲ生ズリ、十
五百十六年、後拓原帝承
正十三年 西班牙王歿スルニ及ビ、
他ニ血統無ケレバ、之ヲ迎ヘテ、位ヲ継カシムル
ルス一世ト稱ス、又三年ヲ歴テ、墮地利ノ位ヲ

継ヤテ、帝位ニ昇リ、獨逸ニ於テチーリス五世ト
稱ス、故ニ兩國合併シテ、一國ト爲リ且、和蘭比耳
時、及ヒ佛蘭西ノ東方ヨリ、以太利ノ過半ヲ合セ
テ、廣大ノ封土ヲ管轄シ、又南北亞米利加ノ諸地
ヲ攻取リ、海外ノ属地モ、更ニ多ク、古來未曾有ノ
大國ト稱ヒリ、然ルニ、教法改革ノ争亂起リ、獨逸
國內穩カナラズ、且、佛王フランシス、專ラチーリス
帝ト競ヒテ、積年戦争絶エザリシガ終ニ歐羅
巴全洲、己ノ意ノ如クナラザルヲ見テ、千五百五
十六年、忽チ自ヲ位ヲ退ヤ、断然世ヲ棄テ山寺ニ

遁レ、終身經ヲ讀ミ、器物ヲ玩弄シテ終レリ、
 查理ルス、帝位ヲ退クニ當リ、西班牙和蘭比耳時
 及ビ海外ノ領地ヲ合セテ、其子ヒリッポ二世ニ讓
 リ、煥地利ノ位ハ、其弟ヘルチナンドニ讓レリ、ヒ
 リッポ二世ハ、殘忍頑固ノ人ニシテ、舊教ヲ尊奉シ、
 新教ニ歸スル者ヲ、嚴罰ニ處シ、人ヲ殺ス、其數
 ヲ知ラズ、和蘭ノ如キ、終ニ、兵ヲ舉ゲテ、獨立國ト
 爲レリ、又葡萄牙王ヘメリハ、ヒリッポノ伯父ナリ
 シガ、太子無クシテ歿ス、千五百八十年、ヒリッポ二
 世、其虛ニ乘ジテ、葡萄牙ヲ平ゲ合併シテ一國ト

爲ス、然ルニ、和蘭ノ勢、次第ニ盛大ニ至リ、西班牙
 葡萄牙兩國ノ屬地ノ、亞細亞亞米利加ニ在ル者
 ヲ奪取リシカバ、此國ノ貿易大ニ衰微シ、國內騷
 擾シテ、甚ダ平穩ナラズ更ニ又英國和蘭等ト戰
 争ヲ起シ、大ニ敗北シテ其威勢益衰フ、千六百四
 十年明正六年皇寬承十至リ、葡萄牙國ヨ、亦兵ヲ舉ゲ
 ナ獨立シ、ブラガンサ侯ジョンヲ立テ王トス、然レ
 厓東印度諸島ノ領地ハ、大畧略ニ和蘭ニ奪ハレ
 シニ因リ、國勢更ニ振ハザルニ至レリ
 西班牙王查理ルス二世、千六百六十八年ヨリ屢

佛國ト兵ヲ支へ、國力大ニ疲弊ス、其歿スルニ及
 ビ、太子無ク、王家ノ系統絶エタリ、然ルニ、澳地利
 ノフェルルス、及ビ佛蘭西ノルイ十四世ノ孫ヒリ、
 フハ、共ニ其分系ナルヲ以テ、王位ヲ争ヒ、互ニ戰
 端ヲ發シ、英吉利、和蘭、葡萄牙ノ諸國、皆壤地利ニ
 カヲ合セ、佛國ヲ攻メ、加フルニ、國內又徒黨相分
 裂シ、千七百年ヨリ、十三年間ノ大乱ト爲レリ、是
 ヲ西班牙國王位相續ノ乱ト云フ、後ヒリ、終ニ
 位ニ即キ、和睦ヲ行フト雖モ、多年ノ争乱ニ由テ
 國勢益衰運ニ赴ケリ、

英佛ノ西班牙國戰圖



爾來、葡萄牙ハ、英國ト連合スル
 ニ因リ、佛國ナボレオン帝ノ盛
 ナルニ及ビ、其侵ハヲ受ケ、之ニ
 敵スルヲ能ハス、千八百七年、葡
 萄牙王、國ヲ棄テ、其南亞米利加
 洲ニアル領地ブラジルニ遁ル、

次テ西班牙國モ、亦國王チャールス四世ト、太子ノ
 間ニ、内乱起リ、佛兵、此機ニ乘ジテ、侵入シ、之ニ敵
 スルヲ能ハズ、是ニ於テ、ナボレオン、遂ニ西班牙
 王ヲ廢シ、自ラ其兄ジョージ三世ヲ封ジ

テ國王トス、然レモ、國人之ニ服セズ、兵ヲ舉ケテ
之ニ抗シ、屢戰爭アリ、然ルニ、英國ノ大將エルリ
ングトン、兵ヲ出シテ、西班牙ヲ援ケシカバ、全國
之ヲ爲メ、氣力ヲ得テ、益佛兵ト激戦シ、次第ニ
之ヲ國境外ニ逐卻タ、ナボレオンノ魯國ニ敗軍
スルニ及ビ、直チニ英國ノ兵ト共ニ、佛國ノ都ニ
攻ハリ、次デ、埃地利ノ都キーントノ會議ニテ、葡
萄牙ヲ舊ニ復シ、西班牙ハヘルチナシトセ、世ヲ
立テ王トス、
初メ、葡萄牙王ハ、都ヲ亞米利加ニ遷スト雖モ、内

亂ニ因テ、其地ヲ止マルコトヲ得ズ、千八百二十
年、終ニ太子ペドロヲ留ルモ、本國ニ歸セリ、然ル
ニ、ペドロ、自立シテ、ブラジル國ノ皇帝ト稱ス、葡
萄牙國王、歿スルニ及ビ、衆議ニ因テ、ペドロノ女
マリーヲ立テ、女王ト爲セシニ、其伯父ミグエル
之ヲ廢シ、自立シテ王ト爲ル、是ニ於テ、ブラジル
帝ペドロ、位ヲ其幼冲ノ太子ニ禪リ、自ラ兵ニ將
トシテ、葡萄牙ニ攻ハリ、其弟ミグエルト戦ヒ之
ヲ逐卻ケ、終ニマリーノ位ヲ復ス、然レモ、國內徒
黨相競モ、平穩チラス、女王歿スルニ及ビ、太子

ハ、ハ、五世、繼テ立チ、又今代ハ王ルイ一世ニ傳
ヘタリ、ハ、西斑牙國ハ、ヘルチナシ、七世、千八百三十四年
ニ歿シ、其幼女イサベラ、位ヲ繼キシカ、此國、女王
位ニ居ル、自舊例大キヲ以テ、前王ノ弟チャールス、
之ヲ憤リ、黨ヲ結シテ、大ニ騷擾ヲ起セリ、數年ノ
後、政府ノ兵漸ク之ヲ鎮定スト雖也、千八百六十
八年、明治ヨリ、又烈シキ内乱起リ、女王、佛國ニ遁
ル、爾來、國體ヲ改メテ、合衆國ト爲セシガ、更ニ三
國ニ復センヲ欲シ、千八百七十年、普魯士ノ王族

ヲ迎ヘ立テントスルヨリ、終ニ普魯士、佛蘭西ノ
大戦争ト爲リテ、其事止メリ、然レモ翌年、終ニ以
太利王ノ次子ヲ迎ヘテ、國王トス、之ヲアメデオ
一世ト稱シ、即チ今代ノ國王ナリ、

以太利

此國ハ、歐羅巴ノ南部ニアリ、元來羅馬帝國ノ本
部ニシテ、其亡アルノ後、或ハ東羅馬ノ版圖ニ歸
シ、或ハ佛國シャールマン帝ノ領地ト爲テ、許多ノ
沿革ヲ歷タリシガ、隨テ内乱常ニ止マズ、獨逸帝
オソ一世、之ヲ平ケ、紀元九百五十一年、村上天皇

萬國史略卷之二
以太利王ノ位ヲ兼統ス、當時此國ノ北部ハ、獨逸
帝ニ屬シ、中部ハ羅馬法王ノ領ニ歸シ、南部ハシ
、リト國トシテ、後十字軍ノ起ルル頃ヨリ、ミラン
ビノス、フロレンス、ベニトス等、麗々ノ都會、繁盛
ニ起ヤ、合衆府ト稱シテ獨立シ、獨逸帝ニ抗敵シ、
終ニ侯國ト爲ル者アリシヨリ、國內數多ノ邦國
ニ區分セリ、（此處ノ國名ハ、略シテ示スルニ可キ）
此國、古來ヨリ戰乱ノ首場ニシテ、多年、獨逸帝ト、
羅馬法王ト、相競ヒテ、爭擾久シク止マズ、又埃國
ト、佛國ノ戰爭ニ因テ、國內常ニ干戈ヲ動カシ、各

州互ニ興亡アリ、後、佛國大騷動ノ時、ボレオン
ノ爲メニ、攻畧セラレ、全國、大抵其管轄ニ歸シ、唯
ベニトスノミ、尙埃國ニ屬セリ、埃都非ーンチノ
大會議ニ因テ、各國ノ境界ヲ定ムルニ及ビ、國內
ノ侯伯、又各蕃土ニ復ス、此時ニ當テ、國中ニベニ
トス、サルヂニア、ロムバルヂーネーブルス等ノ
王國、及ビ羅馬法王ノ領土アリ、又バルマ、モゲナ
トスカニール等ノ侯國アリ、其中ベニトス國ハ、固
ヨリ埃國ノ所轄ニシテ、其他ノ王侯モ、亦埃國ノ
親屬ニ係ル者アリテ、其威力ニ依頼スル者少カ

ラズ、又、サルヂニア國ハ、此時小國ナリト雖、後
來全國ヲ一統シ、方今以太利國ト稱ズルノ基本
タリ、
紀元千八百二十年以來、ピエモンテ、ネーブルス
羅馬等ノ都府ニ、内乱屢起リ、争擾止マザルヲ以
テ、各邦埃國ノ援兵ヲ乞ヒ、漸ク之ヲ鎮壓スト雖
モ、其勢全ク平定ニ至ラズ、蓋シ、國內各邦ノ政令、
皆威權ヲ以テ、庶民ヲ抑制セシヨリ、人心怨ヲ含
ムト深ク、殊ニジョーゼフ、マッジニナル者ヲ巨魁ト
シテ、民政ヲ主張スルノ黨、國內ニ蔓延シ、千八百

三十年以來、又處々ニ徒黨起リテ、政府ニ抗敵ス
是ニ於テ、埃國ノ老大將ヲデツキ、兵ヲ率平テ、ロ
ムバルヂーノ都ミランニ屯セシガ、民政黨ノ勢
甚盛ニシテ、之ヲ鎮定スル能ハズ、終ニ兵ヲ班ス
ニ至レリ、此時、サルヂニア王チャールス、アルベル
トハ、獨リ他邦ノ君主ト異ニシテ、威權ヲ私セス、
專ラ民政ヲ主張シ、兵ヲ起シテ、埃國ト戰ヒ、モデ
ナバルマ等ノ數邦ヲ平ゲ、ロムバルヂーニ侵入
セシガ、埃國ノ大將ヲデツキ、爲メニ、大ニ敗ラ
レ、モデナバルマ等ヲ舊ニ復シテ、漸ク和議ヲ講セ

リ、然レテ、ジョーゼフ、マツシニ、及ヒカリバルジ等民政
 黨ノ兵ヲ指揮シテ、法王ヲ逐黜ケ、羅馬府ニ據ル、
 各地、復々鼎沸シテ、埃國ノ兵ニ抵抗シ、更ニサル
ヂニア王ニ逼リテ、援兵ヲ假ラントテ、乞フ、故ニ
チャールス、アルベルト、再ビ兵ヲ起シテ、埃國ト戦
ヒシガ、衆寡敵セズシテ、又大ニラデツキノ爲メ
ニ破ラレ、國力、疲弊シテ、如何トモスルト能ハズ、
竟ニ和ヲ埃國ニ乞ヒ、即日ニ、位ヲ太子ビクトル、
エハマヌエル二世ニ讓テ、他國ニ退去セリ、後埃

國佛國、西班牙等相結シテ、國內ノ一揆ノ平ゲ、千
 八百四十九年、羅馬府ヲ陷シイレ、法王及ヒ各邦
ノ君主ヲ舊ニ復ス是ニ於テ、各邦皆嚴ニ民政黨
 ヲ追捕シ、益政府ノ威權ヲ張レリ、然ルニ、サルヂ
ニア國ハ、獨リ國民ノ不羈自由ヲ肯トシ、政令法

ルエヌマムエルトクヒ



度ヲ改革シテ、專ラ仁惠ノ
 施ヘルガ故ニ、全國ノ人民
皆後來ノ望ヲ、サルヂニア
王ニ歸セリ、
 爾後、サルヂニア王ハ、國力

フ養ヒ、兵馬ヲ精練シ、潛ニ佛帝ヲホレホシ、三世
 ト約シテ、埃國ヲ挫ガントスルノ機會ヲ待チシ
 ヲ、千八百五十九年、安政六年終ニ埃國トノ和親破レ、
 彼ヨリ戰端ヲ開クニ至リ、佛帝自ラ大軍ヲ帥キ
 テ、急ニ以太利ニハリ、サルチニアヲ助ケテ、埃軍ト
 マケンタリルヘリノ等ニ於テ、大戰シ、終ニ之ヲ
 破リ、ロムバルヂーヲリルヂニアニ附シ、和議ヲ
 講ス、同時ニ、トスカニー、モヂナバルマ等、諸邦ノ
 國民、蜂起シテ、君主ヲ逐ヒ、サルチニアニ屬セン
 ト欲テ、此動乱、次第ニ全國ニ洩漫シ、民心、皆風ヲ

望シ、ザリル、チニアニ歸向シ、以太利北部ノ半ハ
 皆其版圖ニ歸セリ、翌年、以太利ノ南部ニ、一揆起
 ルニ兼テ、彼民政黨ノ巨魁ナル、カルバルジヲ大
 將トシ、兵ヲ出シテシ、リノ島ニ上陸セシメ、ネ
 ーブルスニ進發セシム、ネーブルス王、兵ヲ出シ
 テ、之ヲ拒ムト雖、敵スルコト能ハス、カルバルジ
 ノ軍、數月ナラズシテ、盡ク以太利ノ南部ヲ平ダ、
 是ニ於テ、羅馬法王ノ領地及ビベネチヤノ除ク
 ノ外、全國盡クサルチニアノ疆土ニ歸シ、乃チビ
 クトルエムマヌエルハ、全國ノ代議士ヲ、チリシ

府會シ、國法ヲ定メ、終ニ以太利王ノ位ニ昇レ
リ、其後、千八百六十六年、塙國ト普國ノ間ニ、戰爭起
ルニ及ビ、此國モ亦塙國ト戰ヒ、スニ、地ヲ
奪ヘリ、又羅馬法王ノ領地ヘ、久シク佛國ヨリ兵
ヲ屯シテ、國民ノ騷擾ヲ鎮撫セシガ、千八百七十
年、明治普佛兩國ノ戰爭ニ因テ、其屯兵ヲ引上ケ
シ、明治以太利ノ兵、忽チ羅馬ニハリ、法王ヲ逐ヒ
テ、之ヲ廢セリ、是ニ於テ全國盡ク一政府ノ管治
ニ歸セリ

羅馬法王ハ、元來、基督教ニ於テ至貴至尊ナル高
僧ニシテ、今ノ天主教ヲ總管セシ者ナリ、初メハ、
絶テ土地ヲ領セザリシガ、佛國ノベビニ王、及ビ
シ、シレマン帝等、專ラ法王ヲ尊信シ、土地ヲ附與
シテ、紀元七百五十年、水謙帝ノ頃、法王ステヘン
三世、始メテ政事ノ權ヲ有シ、爾來、全ク獨立ヒル
一國ト爲リ、次デダレゴリ一七世ノ如キ、最權力
アリ、且全洲教派ノ本宗タルヲ以テ、一時列國ノ
王侯ヲ服従セシメ、之ニ統スル者ハ、罰シテ教中
ニ肅セザラシムルニ至ル、紀元、千五百年ノ頃ハ、

此國最モ著名ナル年代ニシテ、法王シユリエス
ニ世々如キ、非常ノ才力ヲ以テ、更ニ其威名ヲ轟
カセ、且、後、獨逸ニ、ルゼルト名ツクル高僧出テ、新
教ヲ創ス、是、今謂フ所ノ耶蘇教ナリ、是ヨ
リ各國之ニ歸依スル者多ク、法王ノ威權、漸クニ
衰マ、降テ、ナホレオン一世ノ時、國土全ク佛國ニ
歸ス、ト雖、バ、、娘都、會議ニ於テ、再ビ舊ヲ復シ、次
シ、千八百八年、内乱因テ、法王ヲ逐ヒ、合衆
國トナリ、シガ、佛國、娘都、國以兵之ヲ平ケ、又法王ヲ
舊ヲ復シ、其後、千八百七十一年、明治四年法王黜ケラ

シ、其地、盡ク以太利政府ニ歸セリ、
其ノ土兒其ノ年、
土兒其ハ、歐羅巴ノ東南ニアリ、其國人、古ハ韃靼
内地ノ人民ニシテ、回教法王ニ屬セシガ、其疆土
分裂スル頃、波斯アルメニア等ノ一部ヲ監食シ、
紀元千年代、漸ク國ヲ建テ、千三百年代ノ初メ、オ
トマン王ニ至リ、次第ニ東羅馬ノ版圖ヲ蠶食シ、
大畧小亞細亞ヲ平定シテ、始メテシユルタン帝王
ノ位ニ昇ル、之ヲ土兒其タルタンノ始祖トス、故
ニ又國號ヲオトマン國ト稱ス其後、國勢次第ニ

盛ニ以テ、版圖ヲ廣メ、千三百六十年、後村ヒ又頃、自平中ノアムラツト一世、歐羅巴ニ侵ハシ、アドリヤ、ホルニア都ス、次デバシヤ、ト一世、英邁豪毅ニシテ、大畧東羅馬ノ領地ヲ攻取リ、又ホニアガリト國ニ侵ハス、ホニガリト王、佛國、及ヒ獨逸諸國ノ兵ト、連合シテ、之ヲ防禦スト雖モ、其勢頗ル歐羅巴ヲ震懼セシメ、然ルニ、其頃帖木兒ノ兵、鞏州興起リ、大畧亞細亞洲ノ西部ヲ平定シ、遂ニ土兒其ト兵ヲ交フルニ至ル、バシヤ、ト一世、自ラ大軍ヲ將キテ帖木兒ト、小亞細亞ノアシゴヲニ會戦ス、時

ニ千四百二年ナリ、兩軍ノ劇戦ニ、シルタン、遂ニ帖木兒ノ爲メニ擒ニセラレテ死ス、是ニ於テ、國內大ニ動揺セリ、

バシヤ、ゼットノ子マホメット一世、位ニ即キ、國勢ヲ挽回シマホメット二世、千四百五十三年、終ニ、コニスヤン、タイノボルヲ陥レ、東羅馬ノ帝國ヲ亡ボシ、爾來、國都ヲ此ニ定ム、次デ更ニ強盛ニ赴キ、四隣ヲ攻畧シ、セリム一世、又エジプトヲ平定シ、其領地、歐羅巴、亞細亞、非利加ノ三洲ニ跨レリ、殊ニノリマン二世ハ、最モ有名ナルシルタンニシテ、千

ソリマニニ世



至ル、又東ハ亞細亞ノ各國ヲ蠶食シ、回教法王ノ都ヲ攻メテ、之ヲ陷シイレ、南ハ亞非利加ノ北部ヲニスマヲ平定シ、且國內ノ政令ヲ改革シ、法度ヲ

五百二十年後和原帝即位ニ即キ、ロデス島ヲ亡ボシ、ホシガリ一國ヲ攻畧シテ、屬國ト爲シ、次デ獨逸ノ内地ニ侵入シ、墺地利ノ都フランクフルトヲ攻囲ムニ

建テ、大ニ英名ヲ轟セリ、是ヲ土兒其國勢ノ最モ盛ナル時トス。

千五百二十年、ソリマン二世歿シ、セリム二世繼テ位ニ昇リ、更ニ又各國ト戦争シ、數代ノ間魯國、墺國等ト、屢兵ヲ交ヘ、東方ニ於テハ、又波斯國ト互ニ境界ヲ争ヘリ、爾後世々相繼テ、國勢漸ク衰ヘ、屢魯西亞ト戦争ニ及ビシガ、常ニ大敗シ、遂ニ地ヲ割キ、和ヲ講ス、蓋シ、此頃魯國ノ勢、日ニ強盛ナリシニ、之ト境ヲ接スルガ故ニ、屢争端ヲ開キ、戦争ニ及ブト雖、之ニ拙劣ナル能ハズ、殊ニ、千

も立ろら
たにん

萬國史

五十一

八百二十九年ノ戦争ノ如キ、大敗シテ魯軍アド
リアノンボルニ侵ハシ、和睦スルニ及ンテ更ニ
封土ヲ縮小セリ、又當時國內ノ形勢ハ、内乱頻ニ
起リ、國力疲弊シ、希臘ノ人民、兵ヲ舉ゲテ叛キ終
ニ獨立スルニ至レリ、次テ八百五十三年、更ニ魯
國ト不和ヲ生ジ、此國復大敗ニ至ラントス、然ル
キハ、魯國益強大ニ赴キ、遂ニ歐羅巴洲ヲ睥睨セ
ントスルノ勢ナルヲ以テ、英佛ノ兩國、上兒其ヲ
助ケテ、魯國ノセハストボルヲ攻撃シ、二年餘ノ
大戦争アリテ、終ニ和睦ヲ定マルニ及ベリ、十八

百六十一年、アブドルアジス位ニ即ク、是ヲ今代
ノシュルタントス

魯西亞國

魯西亞ハ歐羅巴ノ東北ニ在リテ、方今比類ナキ
大國ナレバ、其盛大ノ勢ヲ爲セシハ、二百餘年來
ノ一ニテ、夫ヨリ以前ハ、國內分裂シ、或ハ久シク
蒙古ニ服シ、未タ開化ニ赴カズ、蓋シ其初メ、歐羅
巴洲民大移轉ノ頃、スヲホニツクノ野民、此地方ニ
移住シテ、漸ク繁衍シ、互ニ戰鬥シテ止マズ、其中
ノ一ゴロト及ヒキーフノ兩部最ヒ繁榮セリ、紀

元、八百六十二年

清和帝
貞觀中

ノ頃、リリ、タル者、

トゴロ、トヲ領シ、近隣ヲ平定ス、即チ魯國創業ノ
主ナリ、後邦土分裂シ、諸侯割據ヒシガ、紀元九百
九十年ノ頃、ウヲシミルノ世ニ至リ、領地次第ニ
廣マリ、又東羅馬帝ノ妹ヲ娶リ、希臘教ヲ用キ、國
内ニ令シテ、之ヲ崇奉セシム、其後、二百餘年ヲ歷
テ、亞細亞洲蒙古ノ兵ノ侵掠ヲ被ワリ、屢漢工元
代ノ將帥、國內ニ攻入り、大小ノ諸侯、或ハ亡ビ、或
ハ之ニ服從シ、貢ヲ納レテ、至ク其屬國トナル、
凡二百餘年間、イワシクシリキツク公ニ至リ、兵ヲ

起シテ蒙古ト戰ヒ、紀元千五百年代ノ初ニ漸ク
國內ヲ平定ス、然レニ東南ノ地方ハ、尙蒙古ニ屬
シ、魯西亞ノ領地、未タ甚タ大ナラズ、且學問風俗
等未タ開ケスシテ、久シク歐洲各國ト交通セザ
リシガ、千五百五十年ノ頃、イワン二世、獨逸英吉
利和蘭等ヨリ、學者製造家ヲ招キ、國內ノ製造諸
術ヲ進メ、次第ニ貿易ヲ開ケリ、次テ、ペートル帝
ニ至リ、國勢一変シテ、忽チ歐羅巴中至大ノ強國
トナレリ、

初ニペートル帝モスコー府ニ在リテ、和蘭人ニ

ル ト 一 ス 帝



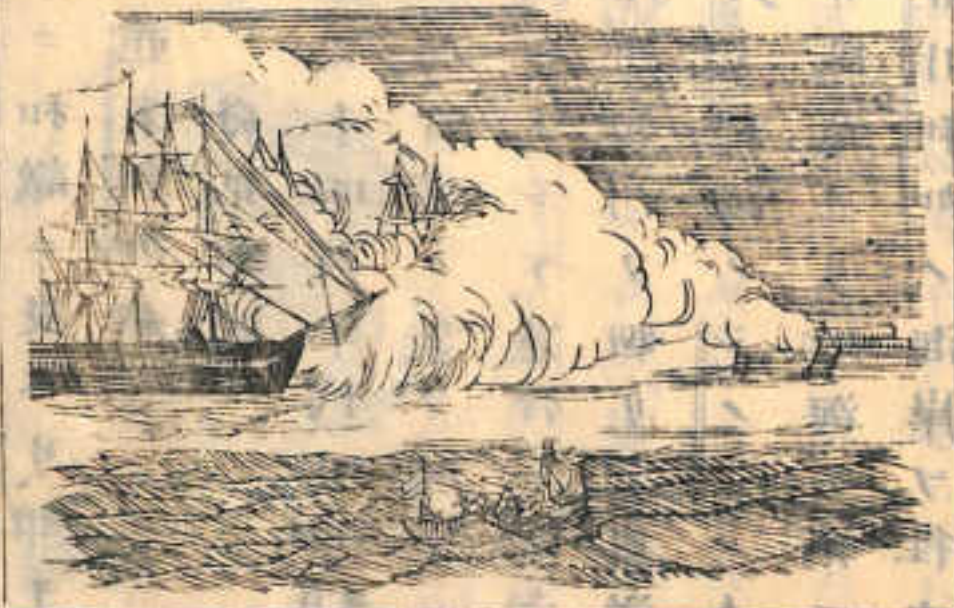
數學ヲ學ビ、且歐羅巴各
國ノ形勢、及ビ學術ヲ傳
聞シテ、大ニ奮發ノ心ヲ
興シ、自ラ之ヲ經歷シ、國
勢ヲ更張セン。一ヲ欲シ
千六百九十年元禄頃、

國內ノ貴族ヲ伴ヒ、各國ヲ遍歷シ、和蘭ノアムス
テルダムニ於テ、親シク造船ノ術ヲ學ビ、又地理
政治等諸學ノ要旨ヲ受ケ、再ビ獨逸、英、吉、利等ヲ
巡歷シテ、文學百藝ニ達シタル者ヲ伴ヒ、歸國ノ

後、制度ヲ改メ、學術ヲ開キ、新タニ都ヲ建テ、ベ
ルトルスブルグト名ヅケ、製造貿易ノ業ヲ勵メ
シ、急ニ海陸軍ヲ盛大ニシ、富強ノ基ヲ固クセリ。
故ニ、國人其盛業ヲ贊シテ、大帝ト尊稱ス。又瑞典
王チャールス十二世ト、隙ヲ起シ、連年戰爭ニ及ビ、
終ニ之ヲ破レリ、千七百二十七年、ペートル大帝歿
スルノ後、次第ニ、歐羅巴各國ト戰端ヲ開キ、殊ニ
屢土兒其ト戰フ、女帝カタリナ二世ノ時、シベリ
アノ地ヲ檢出シ、大ニ亞細亞ノ北部地方ニ、領土
ヲ擴メ、東カムシツカニ至ル。又大舉シテ、土兒其ヲ

攻メ、千七百六十二年ヨリ、三十餘年間、數度ノ戰
 争アリ、アレキサンデル帝ノ世ニ、佛國ナボレオ
 シ、大軍ヲ帥キテ、舊都モスコワニ攻ハリシガ、數
 回大戦ノ後、自ラ其都府ヲ焼拂ヒ、佛國ノ大軍ヲ
 シテ、饑寒ニ逼ラシメ、其退カントスルニ及ビ四
 方ヨリ、之ヲ追撃シテ、大ニナボレオンヲ破レリ
 次デ、ニコラス帝ノ世ニ、又土兒其ト戦争ニ及ビ
 大ニ其領地ヲ奪ヒ、千八百二十九年、和議ヲ定メ、
 又ボートランドノ滅ボシ、普魯シ壞地利ト共ニ、其
 地ヲ分領ス、其後ニコラス帝ノ末年、又土兒其ト

七バトボルノ戦



不和ヲ生ズ、此時、英佛ノ
 兩國、土兒其ヲ助ケ、千八
 百五十二年ヨリ、殆ト三
 年間ノ大戦争アリ、殊ニ
 セハストボルノ砲臺ニ
 於テ、攻守ノ大戦、最モ烈
 シク、近代有名ノ戦争ト
 ス、千八百五十五年、ニコ
 ラス帝歿シ、太子アレキ
 サンデル二世位ニ即キ、

終ニ和議ニ及ベリ、即チ今代ノ國帝ナリ、

亞米利加洲

發見殖民

紀元千四百年代ノ中世歐羅巴洲ノ各國、次第ニ航海貿易ノ業ヲ開クニ當リ、西班牙、葡萄牙ノ兩國、皆トシテ、遠洋ノ航海ヲ務メ、殊ニ、葡萄牙ハ亞非利加洲ヲ廻リテ、東洋ノ海路ヲ搜索セリ、此頃以太利國ノジノアノ人ニ、コルムブスナル者アリ成童ヨリ、航海ノ術ニ精シク、積年地中海ヨリ亞非利加ノ海岸ヲ往來セシガ終ニ種々ノ經驗

コルムブス

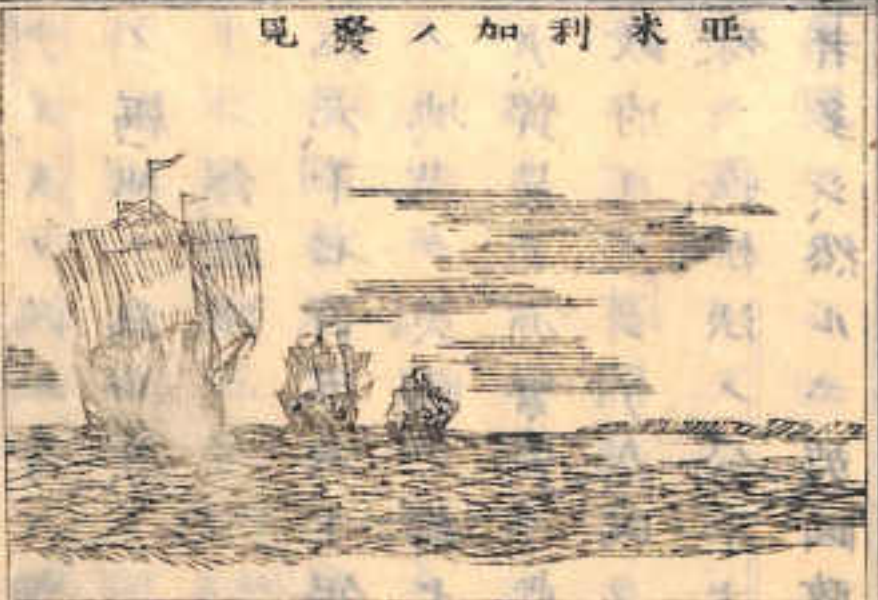


ニ因リ、大西洋ヲ越エテ、尚西方ニ進行スルハ、必ズ人間未發ノ世界ノヲント考ヘ、之ヲ實地ニ驗セント欲セシニ、自カニ及ビ難ク、諸國ノ王公ニ說キ勸メシニ、皆空說ナリトシテ、用中ナレズ

次第ニ貧困ニ迫リ、終ニ西班牙ニ流寓シ、國王ヘルチナントニ謁シテ、西方ノ新世界ヲ檢出セントフ說キシガ、王妃イサベルヲニ、其說ヲ採用セラレ、數艘ノ大

船及ヒ路費等ヲ賜ハリ、時ニ紀元千四百九十二年、後上御門天皇前古未檢ノ大洋ヲ西ニ向テ、開帆シ、數月ノ間、海上ノ辛苦ヲ經テ、終ニ今ノ西印度中ノバハマキニ諸島ヲ檢出シ、隨テ之ニ殖民シテ、西班牙國ノ屬地ト爲セリ、歐羅巴ノ各國、新世界ノ檢出ヲ聞クニ及ンテ、葡萄牙、英、佛、和蘭、以太利等ヲ初トシテ、各國ヨリモ、船艦ヲ送り、次第ニ亞米利加ノ大陸ヲ檢出シ、互ニ之ヲ分領シテ、人民ヲ移シ、土地ヲ拓キ、種々ノ產物ヲ得ルニ至リ、漸ク繁盛ニ赴ケリ、千六百年代ノ初メニ於テ、比亞

亞米利加ノ發見



米利加ハ、北部カナダノ地ヲ、佛國ノ領トシ、中央ハ英國ニ歸之、之ヲ接シテ、和蘭、瑞典ノ屬地アリ、夫ヨリ南ハ、メキシコヲ包有シテ、南亞米利加洲ニ跨リ、蓋ク西班牙ノ領地トス、然ルニ、千六百六十七年、和蘭ノ領地、皆英國ニ歸シ、千七百五十

四年、英、佛、及ヒ西班牙國ノ間ニ不和ヲ生シ、連年

此國ニ於テ戦争ス、後、和議ヲ講シ、佛國ノ領地カ
ナタ、及ヒ西班牙ノ領地ノフロリダ、共ニ盡ク英國
ノ屬地ト爲レリ

合衆國

紀元、千七百五十六年、寶曆ノ頃、北亞米利加東岸
ノ地、盡ク英國ニ歸セシヨリ、土地已ニ盛大ニシ
テ、貿易モ亦繁盛ニ赴ク下雖、勅モスレバ、本國
政府ヨリシテ、人民ヲ束縛シ、政令宜シキヲ得ズ
殊一收稅法ノ公平ナラザルヨリ、國內怨訴スル
者多シ、然ルニ、英國政府、更ニ威權ヲ挾テ、苛酷ノ

處置アリシカバ、千七百七十四年、各州ヨリ代議
士ヲ選ミ、ヒラデルヒア府ニ會議シ、政令ヲ改革
セシトテ、英國政府ニ願訴ス、因テ、英國ヨリ兵隊
ヲ送リ、更ニ又威カラ以テ、之ヲ壓伏セシメント
スルニ及ビ、國內ノ人心、益動搖シ、遂ニ兵ヲ擧ゲ
テ、英國政府ノ兵ニ抗スルニ至レリ、
千七百七十五年、後桃國天皇レキシシダトシニ
於テ、初メテ戰端ヲ開キ、是ヲ獨立戦争ノ始トシ、
ニューヨルク、ピルヂニア、マリイランド、南北、カロ
リナ等ヲ首トシテ、十三州ノ人民、同盟シテ兵ヲ

擧ゲヤシントンヲ以テ總督トシ、英國ノ兵ト戰
 争ス、又、マフルソン、フランクリン、アダムス等ノ
 英傑、檄文ヲ作り、其英國ニ叛キテ、獨立スル所以
 ヲ理百論シ、之ヲ諸州ニ布告シ、益防禦ノ備ヲ堅
 クセ、明、爾後數年間、英國ヨリ、此動乱ヲ平定セン
 ト、海陸ノ大軍ヲ送り、攻撃甚々急ナリト雖モ、總
 督ワシントンシ、毎ニ寡兵ヲ以テ、大敵ニ當リ、少シ
 タモ屈撓セズ、屢苦戰シテ、互ニ勝敗アリ、其間、ワ
 シントンクリン、佛國ニ遊說シテ、其援兵ヲ乞ヒ、次
 テ、西班牙、和蘭モ、共ニ英國ニ抵抗ス、是ヨリ、ワシ

シトニイ兵勢、益盛ニシテ、數度ノ戰爭ノ後、千七
 百八十一年、ヨトクダウシニ於テ、佛兵ト共ニ英
 國ノ大將、コルンエリスノ大軍ヲ破レリ、
 是ニ於テ、英國モ、征討ノ力盡キテ、和議ヲ講シ、千
 七百八十三年、天明年終ニ英、米、兩國ノ和睦ヲ結ビ、



此國、全ク獨立シテ、是ヲ亞
 米利加合衆國ト稱ス、次デ
 ヒラデルヒアニ於テ、大會
 議ヲ爲シ、合衆共和ノ政體
 ヲ定メ、四年ノ任限ヲ以テ

大統領ヲ公選シ、政府ノ主宰タラシメ、即チワシ
 ニトシテ以テ、大統領ニ任セリ、然ルニ積年以戰
 乱ニ因テ、國債ノ數夥シク、國內疲弊シテ、之ヲ如
 何トモスベカラズ、然レモワシニ、善ク政法
 ヲ治メ、賦稅ヲ平コシ、漸クニ治安ニ至ラシム、
 以テトシテ在職ノ期滿ツルト雖、公選ニ因テ、再
 任シテ、大統領ノ職ヲ務ム、茲ニ其職ヲ繼ギシ
 者七百九十七年、ジ、シ、アダムズ、代、職ヲ繼ギシ
 ガ、久シカラズシテ、佛國トシテ和議成レシトシ、復
 ワシニトシテ、擧ゲテ、大將ニ任ゼリ、然レモ、戰爭

ニ至ラズシテ止ム、其後、ジ、フルソン、大統領タル
 時、佛國ノ屬地ルイシア州ヲ購ヒ、合衆國ニ入
 ル、當時、貿易益盛大ニシテ、英國ト競ヒシガ、千八
 百十二年、マチソン、大統領タル時、終ニ英國ト戰
 争ニ及ベリ、後、英領カナダノ地、内亂起リシ時、英
 國ト、再ビ不和ヲ生ズト雖、戰争ニ至ラズシテ
 止ム、又大統領ボルックノ時、千八百四十六年、仁孝天皇
 以テ南部ノ隣國メキシコト、戰爭起リシガ、大ニ
 之ヲ破リ、カリホルニア等ノ諸州ヲ以テ、合衆國
 ニ入ル、此國、獨立以來、次第ニ、近傍ノ諸州、同盟ニ

加ハリ、其版圖頗ル廣大ニシテ、大西洋ヨリ、太平洋ノ海岸ニ達セリ、其後、數代ヲ歴テ、大統領ビールスノ時、千八百五十三年、孝明天皇嘉永六年、ベルリヲ使節トシテ、我日本へ軍艦ヲ送り來リ、始メテ兩國ノ和親ヲ結ベリ、
大統領アカナシノ時、奴隸ノ論ヨリシテ、國內徒黨分レ、動搖少カラズ、蓋シ、奴隸ノ論トハ、此國、往昔ヨリ、土地ヲ開拓スルガ爲メ、亞非利加洲ヨリ、黑人ヲ買來リ、山野田園ニ力作セシメ、奴隸トシテ、多年之ヲ販賣スルノ風俗アリ、然ルニ、人類

ヲ販賣スルハ人道ノ正理ニ悖ルユエニ、此舊習ノ一洗シ、黑人一雖凡、皆不羈自由ヲ得セシメントスルノ論アリシガ、南部ノ諸州ニ於テハ、甚ダ之ヲ便ナリトセズ、此争論既ニ數十年前ヨリ起リ、近年益徒黨ヲ結シテ、争論相競ヒ、殆ド動乱ニ至ラントス、千八百六十年、孝明天皇萬延元年、リシコルシ大統領ノ選舉ニ定マルニ及ビ、其奴隸ヲ廢スルノ主論者ナリシヨリ、南部ノ諸州、忽チ沸騰シ、同年ノ冬、南カロリナ州、先導シテ、兵ヲ舉ゲ、續テ、カリフォルニア、アラバマ、ミシシッピ等ノ諸州、之ニ加ハリ、翌



春ニ至リ、北カロリナ、ジョージア等、又連合シテ
 南部十三州、同盟ヲ爲シ、シムフルソン、ダビスマヲ以
 テ、大統領トシ、リッチモンドニ、政府ヲ定メ、獨立國
 タラント欲ス、是ニ於テ、南北全ク分裂シ、マール
 ストンノ港ニ於テ、南部ヨリ、
 サムトルノ城堡ヲ攻撃スル
 ヲ以テ、戦端トシ、五年ノ間、海
 陸共ニ大戦争アリ、千八百六
 十四年ノ頃ニ於テハ、南部ハ
 リーヲ以テ、大將トシ、総軍ニ

十五萬、屢劇戦シテ、北部ノ都ワシントン府ニ逼
 リシコボリ、又、北部ハ、グラントヲ大將トシテ総
 軍一百餘萬、次第ニ南部ニ攻入り、翌年四月終ニ
 リッチモンドヲ陥シイレ、次テ大將リーヲ降伏セ
 シメ、大統領ダビスマ等ヲ擒ト爲シ、是ニ於テ、戦乱
 全ク平ギ、人望益リンコルニ歸シ同年任限満
 ツルト雖モ、再ビ之ヲ推選ス、然ルニ、演戯場ニ於
 テ、刺客ノ爲メニ、遂ニ暗殺セラレタリ、
 ションソン、大統領トナリ、千八百六十七年、北亞米
 利加ノ西北部ニ在ル魯國ノ属地ヲ、七百萬弗ヲ

以テ購ヒ得テ、益國疆ヲ増セリ、蓋シ近年此國ノ
 形勢益富強ニシテ貿易繁盛ヲ極メ、更ニ太平洋
 ニ、蒸氣飛脚船ヲ置テ、我日本、及ビ清國等ト、期日
 ヲ定メテ、相往來シ、且新々ニ綿亘ル鐵道ヲ構
 造シ、國內ヲ貫キ、直チニ太平洋ノ海岸ヨリ、太西
 洋ノ海岸ニ達ス、實ニ東洋貿易ノ全權ヲ掌握ス
 ト謂ツベシ、又彼南北戦争ノ時、總軍ノ大將タリ
 シグラランド、千八百六十九年、大統領ニ任ゼシヨ
 リ、今尚再任シテ、職ニ居レリ、
 萬國史畧卷之二了

川崎千虎編纂
 訂正 大日本語射圖
 增補

全部 四軸

同 譯圖
 同 問答

全貳冊

此書ハ日本地誌畧中ノ疆域郡名同位置府縣廣邑
 山脈川脈及ヒ官國幣社山陵燈臺錢道ニ至ルマテ
 一々問題ヲ龍頭ニ擧ゲ本文ニハ一々答ヲ施シ位
 置問答致シ日本地誌畧中肝要ナルヲヲ諸語シ易
 キ必用良書ナリ小學生徒ハ必ス一部ハ机上ヲ欠
 クベカラザルノ珍卷ナリ

發兌 書肆

大坂 三木 佐助

岐阜 山岸 彌平

京都 辻本 九兵衛



